平成 25年度 山口県立徳山高等学校（本校・全日制） 学 校 評 価 書 校長 （藤澤 正信）

1 学校教育目標

（1）勢いと動きのある学校づくり
① 学年、分掌、事務室等との連携による組織力の一層の向上
② 現役合格率の更なる向上及び部活動・学校行事等の一層の充実（→文武両道）
③ SSHの全校的な協力体制による推進 ※SSHを活用した全校生徒の人間力アップ
④ 積極的な情報の発信（→学校HPの充実・迅速な更新）

（2）生徒や授業が自慢の学校づくり
① 文武両道を継承し、品格と教養のある生徒の育成
② 心の教育の進展と生徒相互の信頼関係の確立
③ わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開
④ 授業評価に基づく授業の改善・充実

中・長期目標 ・・・ 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

① SSH指定3年次の活動は計画通り実施することができた。
1学年の活動報告会は2時間に拡大して行った。2学年の課題研究発表会は周南市民館で実施。3学年のSSH応用も予定通り実施した。
高大連携では九州工大や山口大学医学部の体験を新たに加えた。
企業連携では㈱トクヤマの協力により企業内で研究体験を行った。
海外研修は指定以来3年間継続してマレーシア方面で研修を行った。昨年度は生徒33名が参加し、充実した内容で実施することができた。

② 運動会は平成23年度から台風による延期を考慮し、土曜日開催としている。昨年度も無事終了し、多数の観客が来校し賑やかな中、支障なく実施できた。

③ 週33単位時間の確保を目指して隔限60分授業から55分6限授業に変更して2年目が無事終了した。校内において新指導要領へ移行する教育課程も了承され、次年度への準備は滞りなく進んでいる。

④ 「わかる授業の一層の推進」を目指して各教科において研究授業を行うこととし、昨年度後半から教科持ち回りで4回研究授業を行った。本年度は年間6回行う予定である。生徒に対する「授業アンケート」は7月と12月の年間2回行い、結果を生徒保護者に公開した。本校の授業に対して9割以上の生徒が満足との回答であった。

⑤ 生徒指導においては、昨年度から体育館で全校一斉の頭髪服装指導を行っている。このことにより、頭髪や制服の着こなしが良くなった。本校生徒指導の4本柱である「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清整」についても継続的に取り組んでおり、全校職員で校門指導やあいさつ運動に積極的に取り組んでいる。

⑥ 情報機器の取り扱いおよび情報の持つ利点と危険性について、生徒の理解を促進する指導を行った。特に携帯電話の使用マナーや情報発信のマナーについて注意を喚起した。本年度も引き続き情報および情報危機に関する指導を継続していく。

⑦ 徳山高校のホームページのリニューアルを行った。今後、ページ内容の充実と積極的な更新が可能となるような校内体制を作っていく。

⑧ 進路指導として、従来からの模試課外の計画的実施、進路だよりや進路講演会の開催、魁講座の実施に加えて、進路課・学年の連携による進路検討会の実施を継続している。管理職も参加して、学年担任が生徒の学習状況を詳しく把握し、進路指導および教科指導に生かしている。

⑨ 部活動においては、顧問の熱心な指導もあって、本年度も生徒の意欲的な活動が見られた。全国、中国大会等に出場した部もあり、文武両道の伝統が継承されている。

⑩ 保護者・生徒による学校評価アンケートの結果では、学校行事や部活動が充実しているといった点で評価が高く、シラバスの活用、環境美化、学校の規則を守る項目の評価が低い。評価が低い項目も過去2年間の評価と比較すると徐々に高くなってきており、改善の成果が出始めているものと思われる。評価の低い項目についてはさらに改善の検討が必要である。

⑪ 平成23年度から、緊急メール配信を開始し、定着している。登録数は生徒数を上回って千件を超えており、生徒と保護者の両者が登録していると思われる。生徒への情報伝達が早く伝わるため、登校時の混乱を避けるのに役立っている。今後、地震や津波などの非常事態に対する連絡方法について、さらに役立つよう検討を進めていきたい。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

①　周南地域の中核校として、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。特に学校行事やSSH等へ積極的に取り組むとともに、質の高い授業を行うことにより、生徒が希望する進路に進めるよう最大限努力する。

②　SSH4年次の取組を全校体制で行う。この活動が生徒の育成に役立つ内容となるよう検討し続けるとともに、国際性の育成や問題解決力の伸長、望ましい自然観や職業観の形成などを目指した研究開発活動を継続・推進していく。

③　学校生活アンケートや生徒による授業評価を活用し授業改善を行う。また、模試分析会、個別面談や課外授業等の教育活動を積極的に行い、生徒の学力向上に努める。

④　学校の教育活動に関する情報は従来から学校新聞やクリック徳高等を通じて、家庭・地域に向けて発信している。今後さらに情報発信能力を高める必要がある。今年度の学校ホームページ（メインページ）のリニューアルを機に、全校体制で内容の充実と早期の更新に努める。

⑤　服装の清整、掃除の徹底、携帯電話の使用等を日常の学校生活の中できちんと指導し、基本的生活習慣の定着を図るとともに、校則やきまりを守る意識を高めていく。

⑥　情報の危険性を強く認識させ、継続して指導を行う。生徒の人権意識を高め、好ましい情報機器の扱いについて外部講師を招いて生徒の意識を高めていく。

⑦　学校行事や課外授業のあり方、特別な支援が必要な生徒への援助や教職員の業務改善など、本校が抱える課題について、全教職員で情報を共有し、協力しながら継続的に改善を進めていく。

4　自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
総務課	○式典・行事・会議等の円滑な運営	・式典・諸行事・諸会議の計画、準備、運営を全教職員の協力により円滑に行う。 ・行事等の実施時期、実施方法の見直しを検討する。	4：全教職員の協力が得られ円滑に実施することができた。 3：円滑に実施することができた。 2：改善すべき点が多くあった。 1：円滑な実施ができなかった。	3	教職員の協力により円滑な行事運営を行うことができた。生徒主体の行事（運動会・体育大会）では、準備日程が十分確保できないために苦慮した面があったため、今後準備日程等、細部の検討を必要とするものがある。
	○学校と分校・家庭・地域との連携強化	・本校と分校間の連携を強化する。 ・保護者の学校への要望、意見の集約を行いPTA活動の活性化をはかる。 ・PTAだよりの紙面充実をはかる。	4：充分な連携強化ができた。 3：連携強化ができた。 2：連携が不十分であった。 1：連携ができなかった。	3	本・分校の連携については、来年度の年間行事予定の計画に際し、両分校との連絡を密にしていく必要がある。PTA活動では高P連全国大会の引き受け、運動会の準備や後片付け等を通してこれまで以上に学校とPTA役員との連携が強化された。
	○情報発信の強化	・ホームページの定期的な更新を行いタイムリーな情報発信を行う。 ・学校案内「きらめく徳高」や「徳高便覧」の内容の充実をはかる。	4：迅速で積極的な情報発信ができた。 3：十分に情報発信ができた。 2：情報発信が十分でなかった。 1：情報発信ができなかった。	3	行事予定表・学校説明会・運動会・徳高祭・吹奏楽部演奏会などの案内、SSHの情報等ホームページの充実に努めた。ホームページ上でどのような内容を掲載し情報発信していくかという学校全体としてのビジョンの検討が課題である。

5　学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望等	評価
概ね円滑にできたが，準備日程から様々なケースを想定した綿密な計画を立てることを検討してほしい。	B
PTAとの連携は良好であったが、分校との連携をより円滑に行えるよう情報共有に努めてほしい。	
更新回数の充実等引き続きホームページの充実に努めてほしい。	

教務課	○総合学習（キャリア教育）の充実	・将来を見据えた進路選択を支援する校内の体制作りと生徒の態度・能力の育成を果たす年間指導計画の充実と実施。	4：:校内体制を構築するとともに年間指導計画の充実、実施を果たせた。 3：校内体制を構築したが、年間指導計画の充実、実施が十分果たせなかった。 2：共通理解は図れたが、校内体制が機能せず年間指導計画の充実が不十分だった。 1：共通理解が図れず校内体制を構築できなかった。	3	年間指導計画を作成し、総合学習の時間を中心にキャリア教育の充実が果たせた。特に1学年は、従来の魁講座とともに、保護者と生徒が一緒に講演会を聴講したり、資料を読んでワークシートを記入したりすることで、健全な職業意識と学校生活に対する目的意識の醸成に寄与することができた。課題であった2学年のキャリア教育も、来年度は分野研究、学校研究を実施する計画を立てた。課題として、1・2学年では今後も年間指導計画に基づいた組織的な取組の維持、3学年では年間指導計画の充実が挙げられる。	取組内容が多岐にわたっており、充実もしている。ほぼ目標を達成できおり4に近い評価であると考えられる。	B
	○新教育課程への円滑な移行と実施	・生徒の目標実現に向けて特性を的確に把握した教育活動の展開とガイダンスの機能の充実。	4：学年、教科間で生徒の特性を共通理解できるとともに、ガイダンス機能が充実できた。 3：学年、教科間で生徒の特性を共通理解できたが、ガイダンスが不十分だった。 2：学年、教科間で生徒の特性を把握できたが共通理解が図れず、ガイダンスが不十分だった。 1：学年、教科間で生徒の特性を把握できず、ガイダンスが不十分だった。	3	進路適性検査や生徒が記入したワークシートなどの活用により、担任の指導が個に応じた具体性を持たせることができた。教科間での情報共有の手助けやガイダンス的なアドバイスとして、進路課が発行する「進路だより」が有効であった。今後も進路課と連携していきたい。課題として、担任個人に頼ったガイダンスを改善するシステムを構築する必要がある。	個に応じた指導は相当程度できているようだが、進路課と連携しながら教務課としてどのように担任に頼ったガイダンスを改善するのか明確にして取り組んでほしい。	
	○校務支援システムの研究	・出席処理、成績処理、調査書・指導要録作成などの校務支援システムの研究と導入検討。	4：現在の課題を明確にでき、課題解決に向けての具体的方策がとれた。 3：現在の課題を明確にでき、課題解決に向けての方向性を見つけられた。 2：現在の課題を明確にできたが、課題解決に向けての方向性が見つからなかった。 1：現在の課題を明確にできず、課題解決に向けて方向性が見つからなかった。	3	教職員全体で課題を共通理解することができ、校務支援システムの導入を果たせた。今後は、情報企画課の協力を得て、システムの円滑な運用に向けてハード面・ソフト面の環境を整えたい。	これまでのノウハウを活かしながら実際運用に向けて環境整備を進めてほしい。	
生徒課	○規範意識の確立	・頭髪服装一斉指導（年間7回）、登校指導（4月～2月の火・金）を継続するとともに、個に対応した粘り強い指導の徹底を図る。また、反省文や指導票を用いた指導、関係機関と連携した定期的な街頭指導や車中指導等、多角的な方法と場面で生徒に寄り添った指導を進める。そのことによって、規律ある高校生活の中で生徒が自ら切磋琢磨し高め合って行くことができる創造的な環境をつくる。	4：掲げた目標を十分達成できた。 3：掲げた目標をほぼ達成できた。 2：努力したが課題が多く残っている。 1：目標達成に至っていない。	3	頭髪服装の一斉指導の方法は、全教員に定着し、現在6回実施した。不十分な生徒に対しては、再指導・再々指導と、粘り強く指導を重ねた。反省文や校門指導での指導票も活用し、保護者との連携を取りながら平素の指導を進めた。交通事故や不審者等の生徒自身の安全に関わる指導においては、関係機関や地域の協力を得ながら指導に当たった。今後は、通学区域の広域化に対応して、車中での指導の機会も増やしながら様々な場面での生徒との関わりを拡充していきたい。	学校評価アンケートで本校の良いところとして最も多かったのが「生徒の雰囲気が良いこと」だったことは、継続した指導の成果と考えられる。より高い次元での「規範意識の確立」に向けて引き続き取り組んでほしい。	B
	○学校行事の成功	・生徒の主体的活動の機会を確保し、また、生徒自身が企画・運営できるような仕掛けを用意することに努める。特に、二大行事（運動会・徳高祭）を中心とする4つの実行委員会活動を通して、生徒一人ひとりが積極的に行事に関わり、連帯感・達成感・自己有用感を高めることができるよう指導し、援助する。	4：行事の成功で生徒全員が成長した。 3：多数の生徒が満足できる行事だった。 2：生徒の自主活動・意欲が低調だった。 1：行事の見直しが必要である。	3	６月における二大行事関連の実行委員会活動やLHR活動が自粛されるなど、例年になく生徒の特別活動をめぐる環境は制約が多かったが、生徒自身はよく工夫をしながら活動に取り組んだ。天候の影響もあり、準備の日程で困難を極めたが、結果的には概ね左記の目標を達成できた。しかしながら、一部事前指導が不徹底だった部分も見られた。来年度に向け、生徒自身の取組に対する意欲を高め、自覚を促すとともに活動時間や場所の確保にも留意した計画を準備して行きたい。	今年は途中に難しい状況も見られたが、生徒の成長という点で成功だったのではないか。学校評価アンケートでは「学校行事の充実」は高い数値ながら前年よりやや低下したのはそのあたりか。行事の成功は徳高生にとって重要なので引き続き大切にして取り組んでほしい。	

	○部活動	・生徒の部活動加入を奨励し、学年を超えた生徒相互の自主的な活動を通じて、学校のさまざまな活動に積極的に取り組む生徒を育成する。そのためにも、生徒と教師との良好で適切な関係が前提となるので、顧問を中心とする教師と生徒との関わり全体を通して挨拶その他のマナー、社会の中であるべきルール等を指導する中で心豊かな生徒を育成する。	4：部活動や実行委員会の加入率が9割を超えた。 3：部活動や実行委員会の加入率が8割を超えた。 2：部7活動や実行委員会の加入率が7割を超えた。 1：部活動や実行委員会の加入率が7割に満たなかった。	3	部活動加入率は、約9割であった。文化部・運動部ともに複数の部や認定種目に属する生徒が中国大会や全国大会への出場を果たした。今後も、平素の活動の結果として、生徒がより充実した経験の場を踏むことができるよう各顧問教員を助けて生徒の社会性や豊かな心を育てていきたい。	大変充実しているので、引き続き心豊かな人間育成に努めてほしい。	
進路指導課	○きめ細やかな進路指導体制の確立	・面談週間を年間2回、保護者会・三者懇談を適宜実施すること等により、生徒一人ひとりの現状を把握し適切な進路指導を行う。	4：生徒の進路選択に大きく役立った。 3：面談に前向きな生徒が多かった。 2：生徒の関心はあまり高くなかった。 1：面談はほとんど役に立たなかった。	3	年間2回の面談週間は予定通り実施し、生徒の実情に応じた進路指導を行うことができた。	取組が予定どおり実施できている。評価基準の「3」と「4」の違いを明確にするのは難しいのではないか。より適切な基準設定を考えてほしい。	B
	○目標達成のための学力養成と進路意識の涵養	・授業を中心としながら模擬試験、課外を効果的に実施して受験に必要な学力を養成する。 ・「進路だより」の定期発行やLHR、進路講演会、大学のオープンキャンパス参加、大学の模擬授業等で、生徒の進路意識の涵養を図る。	4：情報提供が保護者に十分伝わった。 3：ほぼ生徒・保護者に伝わり役立った。 2：生徒・保護者とも関心が低かった。 1：ほとんど印象に残っていなかった。	3	模擬試験・課外の実施を通じて、受験勉強への意識や学力の向上に役立てることができた。「進路だより」では各学年が工夫を凝らし時期に応じた情報提供を行った。これと進路講演会やオープンキャンパスへの学校参加により、生徒の進路意識が高まった。課外については、受講希望者が多いことから今後内容や教科等をさらに充実させていきたい。	多くの取組が予定どおり実施されている。評価基準の設定次第では「4」になるのではないか。	
	○各学年の重点目標	・第1学年ー学習オリエンテーションを実施するなど、『予習・授業・復習』 サイクルによる学習習慣の定着を図る。	4：生徒の家庭学習習慣が定着した。 3：生徒の予復習時間が増加した。 2：指導の効果が顕著に見えなかった。 1：指導が生徒の負担になった。	3	「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により高校の学習によりスムーズに適応した。週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、計画的に学習するよう指導し、概ね学習習慣が定着した。	各学年とも目標を明確にして適切に取り組んでいる。	
		・第2学年ー学習計画表作成・受験アタック課外・模試の実施等により早期受験態勢作りを促す。	4：生徒の受験取組が十分できた。 3：真剣に取り組み、学力が向上した。 2：取り組んだがあまり効果がなかった。 1：生徒の取組が低調であった。	3	学習計画表を作成し、計画的な学習をするよう指導するとともに、進路講演会や学年集会を実施した。12月には三者懇談会を実施し、現状認識と3年0学期の意識を強くし、新課程入試に対応できるよう早期受験態勢作りを行った。これらにより受験への意識の取組は高まった。		
		・第3学年ー学習計画表作成・センター試験対策講座の実施等により、受験学力の養成と行事からの切り替え指導を効果的に行う。	4：取組により学力が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒が伸びた。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：受験体制への切り替えが遅れた。	3	学習計画表を作成し、計画的な学習をするよう指導するとともに、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。徳高祭直後には、センター試験対策講座や全員受験模試の実施等により切り替え指導を行った。課外は継続実施、大学別模試、小論文講座等を行い学力向上に取り組むことができた。これらにより、生徒は粘り強く学習に取り組んでいる。		

教育相談課	○人権に配慮した指導の充実	・教職員の人権意識を高めるための校内研修を充実させ、地域・保護者から信頼されるようつとめる。	4：取組により意識が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：人権意識が高まらなかった。	3	人権教育課の嬉先生を講師として招き、山口県人権推進指針及び山口県人権教育推進資料をもとに校内研修会を開催し、教職員の人権意識の向上を図ることができた。	予定どおり取組ができている。アンケート等による成果の検証があるとよい。	B
	○早期対応による　学校不適応の未然防止	・生徒の人権意識を育てるために日常生活全般で、人権に配慮し教育活動が行えるよう啓発する。	4：取組により意識が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：取組の成果は不十分であった。	3	岡山県立盲学校から竹内昌彦先生を講師として招き、「私の歩んだ道～見えないから見えたもの～」と題して、人権教育講演会を実施した。学年会などに定期的に参加し情報提供・収集に努めたり、Σ検査や生活意識調査を実施して実態把握に努めた。	講演会や検査、調査などきめ細かで着実な取組がされている。「著しく向上」という評価基準は厳しすぎるかも知れない。	
		・学級担任や学年会と積極的に連携をはかり、学校不適応傾向のある生徒を早期に把握し、適切な対応ができるようつとめる。	4：取組により意識が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：教育相談への意識の切り替えが遅れた。	3	SC杉山先生による「教育相談的な立場での生徒との接し方」と題して教職員対象の研修会を開催した。課員が学年会へ参加して健康観察や保健室来室状況などの情報提供や連絡調整を行った。これにより円滑な連携の元で指導を行うことができた。		
	○教育相談体制の充実	・「教育相談だより」を定期的に発行し、生徒・保護者への情報提供を行う。 ・外部機関との連携を図り、多面的な対応が出来るよう努める。	4：取組により意識が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：教育相談への意識の切り替えが遅れた。	3	教育相談だよりを3回発行した。支援が必要な生徒に対しては状況を判断しながら、必要に応じて外部機関（医療関係）と円滑な連携を取って対応した。	支援が必要な生徒に対して丁寧な対応や取組を行っている。「生徒の支援が、円滑な連携によってできたかどうか」を軸として評価したのでよいのではないか。	
		・スクールカウンセラーと連携し、生徒・教職員・保護者に対する啓発活動をいっそう充実させる。	4：取組により意識が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：教育相談への意識の切り替えが遅れた。	3	年間10回のSC来校により、毎回SCとの情報交換と指導助言を受け、生徒への支援を深めることができた。		
	○特別な支援を必要とする生徒への対応の充実	・特別な支援を必要とする生徒に対する、十分な支援計画を作成する。	4：取組により特別支援への理解が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	特別支援教育校内委員会を5回開き、支援の方向を検討した。その後、支援計画に基づく支援方法を職員会議で報告し、全教職員が支援の方法を確認することができた。	支援・・指導計画の作成から生徒・教職員への啓発まで適切な取組ができている。	
		・特別な支援を必要とする生徒に対する、十分な指導計画を作成する。	4：取組により特別支援への理解が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	特別支援教育校内委員会以外にも、担任、学年と教育相談が情報を共有する機会を持って指導計画を決定し、同一の目標のもとに生徒の指導をすることができた。		
		・生徒・教職員へ、特別な支援を必要とする生徒への理解と対応ができるよう啓発・研修を充実させる。	4：取組により特別支援への理解が著しく向上した。 3：真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2：取組の成果が十分現れなかった。 1：特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	地域コーディネーターの来校により、情報交換と指導助言を受けたり、該当する生徒に対し校内の特別支援委員会を定期的に開催し、取り組みを深めることができた。		

図書視聴覚課	○読書活動の充実	・LHRでの図書館教育を実施し、感想文・作文・読書ノートを提出させる。	4:課題提出率は非常に良かった。 3:課題提出率は例年並みであった。 2:課題提出率は例年を下回った。 1:課題提出率が顕著に低かった。	3	今年度から図書視聴覚課として生徒に課す活動となったが、総合的な学習の時間等で学年の協力もあり、読書感想文、読書ノートは例年並の良好な提出状況である。	「読書活動の充実」は重要な取組である。提出率、利用者数とも「例年並み」ということであるが、具体的数値による基準も設定を検討してほしい。	B
		・新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を行う。	4:利用者数が例年より多かった。 3:利用者数は例年並みであった。 2:利用者数がやや少なかった。 1:利用者数の減少が顕著であった。	3	新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を計画通りに実施した。1年生の来館者数が例年より多い。		
	○図書室利用の促進とマナーの向上	・図書室でのマナーおよび図書貸出規定の遵守を呼びかける。	4:常に快適に利用できる状態だった。 3:大きな問題点は感じられなかった。 2:時にマナー向上指導の必要を感じた。 1:利用マナーが悪かった。	3	図書室でのマナーは良好である。貸し出し図書の延滞が一部の生徒にあったため指導を行った。	引き続き図書室利用の促進とマナーの向上に取り組んでほしい。	
	○連携による業務の推進	・校内の他分掌及び他校との連携により円滑な運営を行う。	4:行事等で円滑な運営ができた。 3:行事等でほぼ円滑な運営ができた。 2:運営に不備な点があった。 1:運営に不備が多かった。	3	室内および体育館では使用方法の周知により使用者ごとの利用ができた。徳高祭では生徒の委員会との連携によりステージ発表を観覧し易くする工夫を試みた。	どのような点が課題として残ったのか明確にして改善に取り組んでほしい。	
厚生課	○校内美化の推進	・ゴミの分別指導の徹底	4:ゴミの分別が完全にできた。 3:ゴミ分別に対する意識が高まった。 2:分別が不十分なところが少しあった。 1:ゴミ処理のマナーが低調であった。	4	ゴミ分別方法がほぼ定着してきており、教室内の清掃・ゴミの分別はよくできている。今後もより徹底させ、定着させたい。	校内美化は、学習環境の整備の点で重要であり良好な取組があるのは良いことだ。	A
		・生徒の清掃態度・意識を高める。特にトイレの清掃・整理整頓を徹底する。	4:生徒は非常に意欲的に取り組んだ。 3:ほぼ期待通りに生徒が取り組んだ。 2:生徒の取組み状況に課題が残った。 1:生徒の取組み意欲が低かった。	4	通常の掃除に対して生徒は概ね真面目に取り組んでいる。トイレ掃除に関し、注意を促したこともあり、改善が見られた。トイレスリッパは常に破損したものを取り換えたので、使用状況がよくなった。		
	○防火訓練の徹底	・迅速な避難と防火・防災意識の涵養をはかる。	4:適切な避難訓練が実施でき、生徒の意識が非常に高まった。 3:適切な避難訓練が実施できた。 2:生徒の取組に課題が残った。 1:生徒の取組意識が低かった。	3	6月の避難訓練は昨年度と同じ形式で生徒への朝礼等での説明をしないで実施したが、適切に行うことができた。10月の避難訓練の際は、雨のために外への避難や生徒による消火活動を行えず、体育館での消防署からの指導だけに終わった。雨の際の訓練方法を事前に考慮する必要がある。	避難訓練が雨の場合の効果的な実施方法を検討してほしい。	
情報企画課	○機器と運用体制の安全性・可用性の向上と維持	・ソフトウェアの確実・迅速な管理により、機器と体制の安全性を確保する。	4:管理は迅速かつ十分であった。 3:ほぼ遅滞や漏れがなく管理ができた。 2:十分な管理ができないことがあった。 1:不適切で業務に支障を来した。	3	複数のアプリケーションのセキュリティパッチまたはバージョンアップの配布を、サーバ側の機能により自動化した。来年第1四半期後半の期限に向けてXp搭載機種の更新を進めている。	ソフトウェアの更新、運用体制の管理は適切に行われている。今後機器の更新もあるようだが、円滑に移行できるよう取り組んでほしい。	B
		・インターネット上と校内の情報資源の適切な利用及びその手段の周知を図る。	4:全員に十分な啓蒙ができた。 3:多数の教員生徒に啓蒙ができた。 2:取り組んだが徹底できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	校内の情報資源について現時点では情報の遺漏・紛失などの障害は発生しておらず可用性を維持している。引き続き生徒の携帯端末の使用による事故等の防止に努める必要がある。		
		・webページ・緊急メール配信網の管理を適切に行い、校内外両方向への速達性を向上させる。	4:校内外での共有は完全であった。 3:現段階では特に問題はない。 2:今後改善すべき点がある。 1:運用に遅延や不足する部分が残っている。	2	即時性のある更新と伝達を行う運用の体制は整いつつある。一方で、携帯端末向けの表示などで技術的に修正を必要とする部分が明らかになりつつあり、予算面での措置が必要となる事態が生じる可能性がある。		

保健体育課	○たくましく生きるための体力の向上	・運動を楽しんだり、競い合ったりする中で、仲間との連帯感を大切にし、自己の体力と運動能力を向上させる。	4:常に仲間と運動を楽しんでいた。 3:仲間と運動を楽しむ生徒が多かった。 2:運動を楽しむ生徒が半数程度だった。 1:運動を楽しまない生徒が多かった。	3	年度初めの集団行動を一年間通じて適宜取り入れ、クラスの連帯感等を高めるとともに、総務委員を中心に自主自律的な行動がとれるよう配慮して指導した。次年度も継続して指導していきたい。	良好な取組がされている。楽しさだけでなく結果として体力の向上がどのように評価されたのか示してほしい。	A
	○望ましい人間関係づくりの形成	・集団行動を通して、基本的生活習慣を確立させる。	4:集団中の個の意識は非常に高い 3:集団中の個の役割を知る者は多い。 2:集団行動になじまない生徒がいた。 1:集団中の個の自覚がない者が多い。	4	集合時間を徹底させ、遅れた場合などにはクラスで罰則を設けるなど厳しく指導した。その結果どの授業でもチャイムと同時に授業が展開できるようになった。	集団行動は実現できている。人間関係づくりについては、「具体的方策」と「評価基準」をより明確にして、取り組んでほしい。	
		・健康相談活動により、自分の思いや願いを話すことが出来る生徒、人との関わりが出来る生徒を育てる。	4:全員が人の気持ちを大切に行動した。 3:ほぼ人の気持ちを考え行動していた。 2:人への配慮をしない者が少しいた。 1:相談が必要な生徒が多数いた。	3	総務委員のリーダーシップと併せて、周囲の生徒のフォローシップにも配慮して指導してきたが、まだまだ配慮の出来ない生徒も多く引き続き指導していきたい。		
理数科	○科学的に考察し，処理する態度の育成	・3校(岩国/徳山/山口)合同理数科セミナー(1年)，大学訪問(2年)を実施する。SSH課題研究で各自のテーマの他に島田川の水質調査を実施する。	4:セミナー等の目的を十分達成できた。 3:セミナー等の目的をほぼ達成できた。 2:達成したが今後改善の余地がある。 1:次年度への課題がいくつかある。	4	効果的な3校合同セミナーを実施することができた。大学訪問では、山口大学理、農、工、医学部、に加えて九州工業大学の情報工学分野の体験学習を実施することができた。2年課題研究で、自分の設定した研究に加えて、秋に島田川の水質調査ができた。	多岐にわたる取組が効果的に実施されている。	A
	○SSHの活用による理数科の活性化	・SSHによる学校設定科目を効果的に実施し、理数科の活性化に結びつける。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定してた活動ができなかった。	4	1年SSH基礎、情報科学、ライフサイエンス（保健）、2年SSH応用（数学）、ライフサイエンス（家庭）、SSH課題研究、3年SSH応用（英語）において、生徒が意欲的に活動できた。	学校設定科目の実施、企業・大学との連携とも効果を挙げている。引き続き様々な面で生徒の将来のためになる活動に積極的に取り組んでほしい。	
		・SSHを活用し、企業・大学との連携を進めていく。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定してた活動ができなかった。	4	SSH基礎、ライフサイエンスにおいて3回の山口大学特別講義を実施した。企業連携活動では、（株）トクヤマで体験学習を実施することができた。		
第1学年	○基本的生活習慣の定着	・挨拶の励行、遅刻の防止、掃除の徹底、及び服装頭髪の指導を通して規範意識を高めさせる。	4:規範意識が十分についてきた。 3:規範意識が次第に高くなってきた。 2:規範意識に大きな変化はなかった。 1:規範意識に欠ける者が増えてきた。	3	挨拶はよくしており、遅刻を繰り返す者もいない。ただ、一部には授業間の休憩中に廊下で騒ぐなど内面的な成長が不十分な者や、行事の後の勉強への切り替えが上手にできないでいる生徒もいる。生活習慣を見直し、修正する必要があると考えられる。	基本的生活習慣の定着に向けて良好な取組がされている。	A
	○主体的な学習態度の確立	・予習･授業･復習のサイクルを定着させ、主体的に学習に取り組む習慣をつけさせる。	4:主体的な学習態度が十分定着した。 3:主体的な学習態度が概ね定着した。 2:主体的な学習態度があまり定着しなかった。 1:主体的な学習態度がほとんど定着しなかった。	4	模試の成績は過去のデータと比べて見劣りはない。勉強の仕方も次第に理解できてきており、考査の準備も早めに取り組んでいる。中でも、目標をしっかりと持っている者は自分の将来像を描いて主体的に学習に取り組んでいる。ただ、一部には学習に対する向上心を持っていない生徒もおり、学習することの意義等を理解できるように、日々努力を重ね粘り強く指導を行っている。	主体的な学習態度の確立は重要な課題であり、良好に達成されていることは望ましいことである。	
	○生徒の問題への早期対応	・各分掌との連携により情報の共有化を図り、生徒・保護者への支援を行う。	4:適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3:様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2:連携は図られたが問題も残った。 1:連携が不十分で問題を多く残した。	3	学習成績の低迷等に対するストレスから不適応を起こし不登校に陥りそうな生徒が数名おり、保護者、養護教諭との連携をとりながら、担任が対応している。今後新たに不適応を起こす生徒が出てくることも考えられるため、学校と家庭が連携してより良い方向に展開できるように、生徒の様子を常に注視していきたい。	不登校傾向のある生徒について適切に対応している。今後も連携を大切にした対応によって学校生活への適応を支援してほしい。	

第２学年	○学習に対しての意識高揚	・学校の授業を中心とした主体的な学習を通じて学力の向上を図る。また、学問に対する興味・関心を深め、学ぶことに対する意義や意識をより高める。	4：主体的な学習態度が十分定着し、学ぶ意識が非常に高まった。 3：主体的な学習態度が概ね定着し、学ぶ意識が高まった。 2：主体的な学習態度があまり定着せず、学ぶ意識があまり高まらなかった。 1：主体的な学習態度が定着せず、学ぶ意識が身につかなかった。	3	授業に関する提出物、あるいは週末課題などの提出を徹底することで、学習に対して取り組む態度や意識を高めてきた。各自の進路を具体的に考えさせることによって、学習に主体的に取り組むように促した。学部の研究、各大学の研究内容や、就職先、入試での受験科目等を調べさせ、面談等で具体的に話すことによって、特に二大行事以降は自分の進路について真剣に考え、学習へも意欲的に取り組む生徒が増えてきた。	良好な取組により生徒の学習に対する意識が高まっているのは良いことである。	B
	○基本的生活習慣の確立と特別活動を通じての人間形成	・挨拶の励行、言葉遣い、時間厳守、遅刻・服装などの指導を通じて規範意識を高め、自己管理能力の育成を図るとともに、諸行事や部活動を通じてより高い人間力を育成する。	4：規範意識が十分に身につき、特別活動にも積極的に参加した。 3：規範意識が次第に高くなってきており、特別活動への参加も見られた。 2：規範意識に欠けるところもあり、特別活動への参加も消極的であった。 1：規範意識に欠ける者が増え、特別活動への参加も非常に悪かった。	3	一部に規範意識の希薄な生徒もいるが、徐々に全体として落ち着いてきている。文武両道を目指して頑張っている生徒も多く、学校行事やクラス参加の行事等でも積極的に取り組み元気に活動している生徒が多い。全体への配慮やリーダーシップ、他との助け合いの大切さなどを感じ取っているようである。	望ましい方向への生徒の成長が見える。最上級では全校を引っ張る立場となるので、更なる成長を期待したい。	
	○生徒の問題への早期対応	・生徒と積極的に関わり合いをもち、各分掌・教員との連携を図りながら、組織的に生徒や保護者への支援を行う。	4：適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3：様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2：連携は図られたが問題も残った。 1：連携が不十分で問題を多く残した。	3	学校での友達等の人間関係は概ね良好であるようだが、学習面や進路について悩みを抱いている生徒が出てきている。家庭環境で悩みを持っている生徒もいる。各分掌や教員、家庭と連携を取り、早めに対応するよう努めた。	支援が必要な生徒に対して適切な支援が行われている。	
第３学年	○学力の向上及び進路指導の充実	・学校の授業を中心とした自立的な学習を通じて、生徒一人ひとりの進路に対応できる学力の充実・向上を図る。また、進路目標をより明確にさせ、その実現に向けた努力に集中できるように、面談やLHRなどのきめ細かい指導を実施する。	4：ほぼ全員の生徒が学力を向上させ、さまざまな進路指導も十分行われた。 3：過半数の生徒が学力を向上させ、進路指導も十分行われた。 2：学力を向上させた生徒が少なく、進路指導に不十分なところもあった。 1：ほとんどの生徒が学力を向上できず、進路指導も不十分であった。	3	通常の授業の他、小テストや課外授業などの成果により、個人差はあるが、センター試験に対する基礎学力、志望している国公立・私立大学の個別試験に対する学力が身についてきた。後期になり、早朝、昼休み及び放課後の自習室において、自習に励む生徒が増え、生徒のやる気が大きくなっている様子が感じられた。進路指導に関しては、個人面談・三者懇談やLHRなど様々な場面を通して、きめ細かく指導を重ねることができた。今後は、進路実現に向けた個別指導を最後まで続けたい。	きめ細かく多くの取組がなされ、学力向上の成果を挙げてきた。	A
	○学校行事に向けた新たな取組の確立	・学校行事が生徒の人間的成長を促す活動の場となり、勢いのある学校づくりの中心的活動のひとつとなるよう、生徒を見守り支援する。また、二大行事と受験勉強との両立を実現するための新しい取組を成功・確立させる。	4：新しい取組が十分機能し、生徒の活動・成長に大いに役立った。 3：新しい取組が機能し、生徒が積極的に活動した。 2：新しい取組があまり機能せず、生徒が積極的に活動できなかった。 1：新しい取組が全く機能せず、生徒のさまざまな活動機会が失われた。	4	今年度の新しい試みとして、６月を学習集中期間として設定し、二大行事の活動を控えながら受験生への切替を行った。７月の模試では、その成果が現れ、例年以上の成績を収めた。行事に関しては、不順な天候など悪条件が重なる中、多くの生徒が学校行事に関わる活動を通じて、仲間と協力し合う大切さや下級生を指導する難しさなど、教科活動では得られない有意義な経験をした。この経験は、卒業後にも発揮されると確信しており、生徒の活躍を期待したい。	生徒にとっては準備において厳しい面もあった中、行事を通して大きく成長できたものと考える。	
	○悩みや問題を抱える生徒への早期対応	・様々な場面で生徒と積極的に関わり合いをもち、各分掌・教員との連携を図りながら、悩みや問題を抱える生徒・保護者への支援を組織的・継続的に行う。	4：適切な連携・支援が十分行われ、ほぼ全ての問題を解決できた。 3：適切な連携・支援が行われ、多くの問題を解決した。 2：連携・支援に不十分なところがあり、対応できない問題があった。 1：連携・支援が不十分で、多くの問題に対応できなかった。	3	生徒の諸問題について、担任・学年団を中心に情報交換を行いながら早期対応に努めてきた。指導に特別な配慮が必要な生徒については、関係職員を中心に全教職員での取り組みを呼びかけてきた。家庭環境等、学校外での難しい問題を抱える生徒もおり、解決までの道のりが厳しいケースもあったが、教員間で連携を取りながらできる限りの支援・指導を行った。	生徒への早期からの適切な対応がなされている。今後も引き続きお願いしたい。	

業務改善	学校の組織等 〇校務の円滑な運営と組織力の向上	・新たに副校長が配置されたことに伴い、本校全日制の校務だけでなく、本校と二分校を合わせた校務の見直しを行うことによって、学校全体として円滑な校務運営を進め、組織力の向上を図る。	4:円滑な校務運営が進み、組織力が向上した。 3:ほぼ円滑な校務運営ができた。 2:校務運営の一部に課題が残った。 1:校務運営に課題が残り、組織力の向上を図ることができなかった。	4	分校における学校行事や会議等に副校長が出席すること、本分校間でスケジュールが適正に管理されていることなどから、本校と二分校間の連携が強化され、学校全体として円滑な校務運営が進み、組織力が向上した。	良好に行われている。分校との連携は今後も重要である。	A
	〇学校行事の検討と見直し	・学校行事の準備や運営について、生徒や保護者によるアンケート結果等を踏まえた検討を進める。課題解決に向け、関係分掌や学年などで幅広く議論し、ボトムアップの形で工夫・改善点をまとめていく。	4:工夫改善が進み、課題が解決できた。 3:工夫改善の方向性について意見をまとめることができた。 2:工夫改善の方向性について意見がまとまらない事項が残っている。 1:工夫改善の議論が進んでいない。	3	運動会、徳高祭(二大行事)について、生徒・保護者のアンケート結果を踏まえ、関係分掌や学年から幅広く意見を集めて議論を進めることができた。大きな方向性を見出すことはできたが、具体的な工夫改善点を取りまとめることはこれからである。	アンケート結果を踏まえ、基本方針は定まったと思われるが、今後具体的な改善を行ってほしい。	
	日常的な業務 〇業務のスリム化、効率化の推進	・毎年度行っている業務をスリム化、効率化する視点で見直し、目的に対するより適正な手順や方法を検討する。	4:スリム化、効率化が実現できた。 3:スリム化、効率化がある程度実現できた。 2:スリム化、効率化ができていない業務がまだある。 1:スリム化、効率化が進んでいない。	3	学校評価アンケートの回答をマークシート化することで、結果集計に係る業務をスリム化することができた。授業アンケートについても、来年度に向けて効率的な実施方法を検討しているところである。業務のスリム化、効率化を図ることによって、生徒と向き合う時間を十分確保することに努めたい。	生徒の指導に時間が取れるように引き続き取り組んでほしい。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

① 総務課

式典・行事については、教職員の連携、学校とPTAとの連携により円滑に行うことができた。本・分校の連携については、来年度２分校体制となるにあたり、今年度以上の連携が必要である。ホームページについては、今後どのような内容を掲載し情報発信していくかというビジョンを確立することが必要である。

② 教務課

総合的な学習の時間を中心に、様々な取組によって充実したキャリア教育を行うことができた。新教育課程の実施は、担任の指導が個に応じた具体性を持たせることができた。校務支援システムは新規導入を行うことができた。課題としては、科目選択等のガイダンスをより組織的に行うこと、校務支援システムの円滑な運用に向けたハード面・ソフト面の環境整備が挙げられる。

③ 生徒課

生活指導については、必要に応じて保護者との連携を取りながら全教員で粘り強く指導を行うことができた。交通安全指導・生活安全指導では、関係機関や地域の協力を得ながら指導を行うことができた。二大行事の準備活動では、６月に委員会活動を自粛したため日程的に厳しい面もあったが、生徒はよく工夫しながら活動に取り組み多くの生徒が満足できる活動となった。部活動も県大会での活躍や上位大会への出場など好成績を挙げた。課題としては、登下校時の交通指導や車中指導の強化、二大行事では事前指導の徹底や６月のより円滑で学習とのバランスの取れた準備活動とすることが挙げられる。

④ 進路指導課

面談週間、模擬試験、課外の実施を通じて、進路意識や受検勉強への意識を高め学力向上につなげることができた。進路だより、進路講演会、オープンキャンパスへの学校参加等により進路意識が高まった。１学年は「学習オリエンテーション」等の４月当初の取組により高校の学習によりスムーズに適応、週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、概ね学習習慣が定着した。２学年は、学習計画表の作成、進路講演会や学年集会を三者懇談会等により、現状認識と次期３年として早期の態勢づくりを行い、受験への意識の取組は高まった。３学年は、学習計画表の作成、、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。徳高祭直後には、センター試験対策講座や全員受験模試の実施等により切り替え指導を行った。課外は継続実施、大学別模試、小論文講座等を行い、生徒は粘り強く学習に取り組んだ。課題としては、課外について今後内容や教科等をさらに充実させることが挙げられる。

⑤ 教育相談課

人権教育校内研修会、教育相談研修会、人権教育講演会は外部講師やＳＣにより効果的な研修、学習を行うことができた。生徒支援については、学年会への参加、Σ検査や生活意識調査を実施して実態把握に努めるとともに、健康観察や保健室来室状況などを把握して、必要に応じて外部機関（医療関係）と円滑な連携を取り、対応を適切に行うことができた。特別支援についても、支援計画に基づく支援方法を共有し、全教職員が支援の方法を確認して取り組むことができた。課題としては、多様な生徒への支援の在り方のノウハウをさらに定着させることが挙げられる。

⑥ 図書視聴覚課

読書活動は、新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を計画通りに実施するとともに読書感想文等の提出も良好な状況であった。図書室でのマナーも良好である。英語多読図書の購入により、１年生徒の利用者数は増加した。貸し出し図書の延滞が一部の生徒にあったため指導を行った。視聴覚機器は、使用方法の周知により使用者ごとの円滑な利用ができた。課題としては、貸し出し図書の延滞をより減少させることが挙げられる。

⑦ 厚生課
　ゴミ分別方法がほぼ定着してきており、教室内の清掃・ゴミの分別はよくできている。掃除に対して生徒は概ね真面目に取り組んでいる。6月の避難訓練は予定どおり適切に行うことができた。課題としては、雨の際の避難訓練を効果的に行うことが挙げられる。

⑧ 情報企画課
　アプリケーションのセキュリティパッチやバージョンアップの配布をサーバ側の機能により自動化、Ｘｐ搭載機種の更新も進んでいる。校内情報は遺漏・紛失などは発生しておらず適切に運用されている。即時性のある更新と伝達を行う運用の体制は整いつつある。課題としては、予算措置を必要とするが、緊急メールの携帯端末への配信がより適切に行えるよう設定を行うことが挙げられる。

⑨ 保健体育課
　集団行動を一年間通じて適宜取り入れ、クラスの連帯感等を高めるとともに、総務委員を中心とした自主自律的な行動がとれるようになってきた。課題としては、総務委員のリーダーシップとともに周囲の生徒のフォローシップの定着を図ることが挙げられる。

⑩ 理数科
　３校合同セミナー、大学訪問、企業体験学習等を効果的に実施することができた。２学年の課題研究、１学年のSSH基礎、情報科学等各科目において生徒が意欲的に活動することができた。課題として、次年度は第Ⅰ期の最終年度となり、第Ⅱ期申請を控えて現状の取組をどのように深化・充実させるかを検討する必要がある。

⑪ 第１学年
　挨拶や遅刻しないなどの学校生活及び学習成績等は概ね例年と見劣りはない。勉強の仕方も次第に理解できてきており、目標をしっかりと持っている者は自分の将来像を描いて主体的に学習に取り組んでいる。課題として、学習意欲が十分でない者や学習成績の低迷等に対するストレスから不適応を起こし不登校に陥りそうな者に対し、学校生活の充実に向けて学校と家庭が連携して適切な支援を行うことが挙げられる。

⑫ 第２学年
　学習に対して取り組む態度や意識を高め、各自の進路を具体的に考えさせることによって、学習に主体的に取り組む生徒が増えてきた。文武両道を目指して頑張っている生徒も多く、学校行事やクラス参加の行事等でも積極的に取り組み元気に活動している者が多い。課題として、学習面や進路について悩みを抱いている生徒、家庭環境で悩みを持っている生徒がおり、関係教員や家庭と連携を取り適切な支援を行うことが挙げられる。

⑬ 第３学年
　年間を通して個人面談・三者懇談やＬＨＲなど様々な場面を通してきめ細かく指導を重ねることができた。授業とともに小テストや課外授業等など平素からのきめ細かな指導によってセンター試験に対する基礎学力、志望している国公立・私立大学の個別試験に対する学力が身についた。６月を学習集中期間として設定し、二大行事の活動を控えながら受験生への切替を行った結果７月の模試では、その成果が現れ例年以上の成績を収めた。行事に関しては、多くの生徒が学校行事に関わる活動を通じて、仲間と協力し合う大切さや下級生を指導する難しさなど、教科活動では得られない有意義な経験をした。行事の終わった後期は、早朝、昼休み及び放課後の自習室において、自習に励む生徒が増え、生徒のやる気が大きくなっている様子が感じられた。生徒の学校生活上の諸問題については、担任・学年団を中心に情報交換を行いながら早期対応を行った。特別な配慮が必要な生徒については、関係職員を中心に全教職員での取り組むことができた。家庭環境等、学校外での難しい問題を抱える生徒もおり、解決までの道のりが厳しいケースもあったが、教員間で連携を取りながら適切な支援・指導を行うことができた。

⑭ 業務改善
　分校における学校行事や会議等に副校長が出席すること、本分校間でスケジュールが適正に管理されていることなどから、本校と二分校間の連携が強化され、学校全体として円滑な校務運営が進み、組織力が向上した。　運動会、徳高祭（二大行事）について、生徒・保護者のアンケート結果を踏まえ、関係分掌や学年から幅広く意見を集めて議論を進めることができた。学校評価アンケートの回答をマークシート化することで、結果集計に係る業務をスリム化することができた。課題としては、授業アンケート実施方法の改善、二大行事の具体的な工夫改善点を取りまとめることが挙げられる。

7　次年度への改善策

① 総務課
　本・分校の式典・行事・会議等の連携について、２分校体制を踏まえて更なる円滑な連携を行うこと。ホームページについて、掲載内容に関するビジョンを確立し、積極的に情報発信を行うこと。

② 教務課
　科目選択等のガイダンスをより組織的に行う体制を確立すること、校務支援システムの円滑な運用に向けたハード面・ソフト面の環境整備。

③ 生徒課
　登下校時の交通指導や車中指導の強化、二大行事では事前指導の徹底や６月のより円滑で学習とのバランスの取れた準備活動とすること。

④ 進路指導課
　きめ細かな個に応じた進路指導を継続すること、学習計画表の作成等による主体的な学習への取組を指導すること、課外について今後内容や教科等をさらに充実させること。

⑤ 教育相談課
　引き続き効果的な研修会、講演会等を実施するとともに多様な生徒への支援の在り方のノウハウをさらに定着させること。

⑥ 図書視聴覚課
　読書活動の一層の推進と貸し出し図書の延滞防止等図書室利用マナーの更なる向上。

⑦ 厚生課
　校内美化の一層の推進と雨の際の避難訓練を効果的な実施。

⑧ 情報企画課
　セキュリティ体制の一層の強化、緊急メールの携帯端末への適切な配信対応。

⑨ 保健体育課
　自主自律的な行動にむけた指導の一層の推進と、総務委員のリーダーシップとともに周囲の生徒のフォローシップの定着を図ること。

⑩ 理数科
　第Ⅰ期の最終年度を迎え、第Ⅱ期申請を控えて現状の取組をどのように深化・充実させるかを検討し確定させる。

⑪ 第１学年
　進路の目標を明確に持たせ、それに向けた主体的な学習習慣を確立させること。支援を必要とする生徒への家庭との連携による継続的な支援。

⑫ 第２学年
　具体的な進路希望を定めさせ、その実現に向けて受験意識を高く持って主体的に学習に取り組ませること。最上級学年として、行事等を通して全体への配慮やリーダーシップ等将来社会で活躍できるための高い人間力を育成すること。

⑬ 業務改善
　本校全日制・定時制・両分校の円滑な運営のための連携体制を確立すること。授業アンケート実施方法を改善すること。二大行事の具体的な工夫改善点を取りまとめ、実践すること。